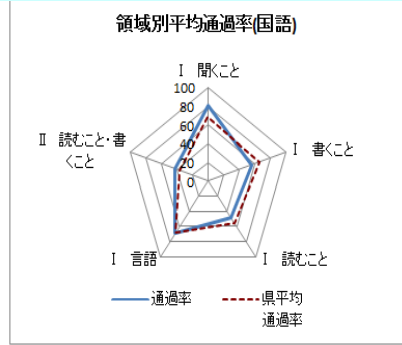
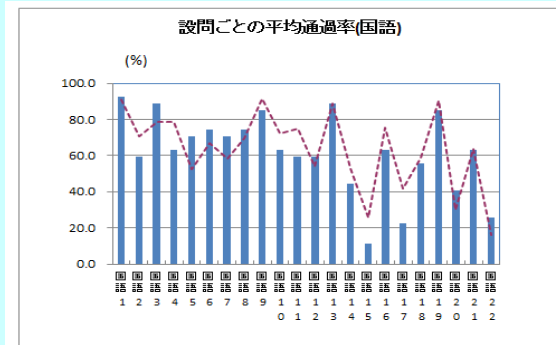


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 61.8%, 県 63.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度は、タイプIIの「書くこと」の領域「引用したり、読み取った複数の内容を関係づけたりして自分の考えを書く」ことに課題が見られたので、ドリルタイム等の時間に「条件を満たした文章を書かせる」ことに取り組んだ。しかし、本年度も、記述する問題の通過率は、25.9%、40.7%であり、依然として「書くこと」の領域に課題がみられる。また、タイプIにおける「読むこと」の領域にも課題がある。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

国語の結果において、タイプIは、64.7%、タイプIIは、43.2%の通過率となっている。「読むこと」の領域では、説明文において、「文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえること」や、「書くこと」の領域で、「主語を補って、一文を二文にして書くこと」に課題が見られた。

全体的な傾向として、文章を根気よく読む力や、設問の意図を理解する力をつけきれていないことを課題としてとらえている。

重点課題

【課題1】

・領域「読むこと」の中心となる語や文の把握 (通過率11.1%)
文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえることに課題がある。

【課題2】

・領域「書くこと」の目的に応じた記述 (通過率22.2%)
一文を二文にして書く問題では、条件を満たしていない児童が55.6%いる。設問の意図を十分理解できていないことが原因と思われる児童が多い。

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

○全教職員で「基礎・基本」定着状況調査・標準学力調査の問題を解き、分析し、課題を共通理解する。

【授業改善】

○説明文の段落相互の関係を捉えさせるために、接続語に着目させたり、要旨となる部分に線を引かせたりする指導を徹底させる。
○段落の組み立てや接続詞に着目して文を読み取る活動を継続し、文章構成のためのポイントとなる言葉や事項の理解の定着を図る。

【取組】

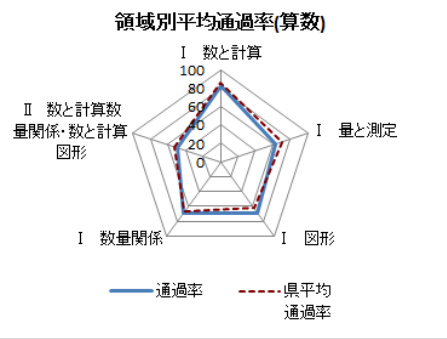
○全学年で辞書を使用し、分からない言葉は調べるなどして、一人で文章を理解しながら読む習慣をつける。
○読み取り問題に数多く当たらせ、文章中の「キーワード」を見つけ、中心となる語や文をとらえながら文章を読むことに慣れる学習を仕組む。
○書くことの単元において、主語や接続語に着目して一文を二文にして作文する学習活動を設定し、文を比べ読みさせるなどして書く力の定着を図る。

取組計画表

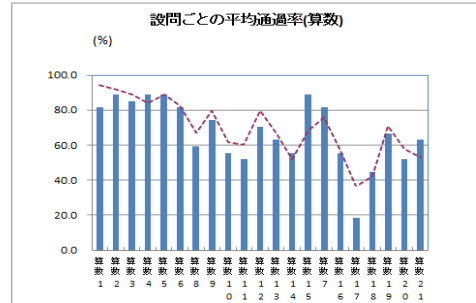
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等 (職員)	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 課題に応じた問題文を選定する。 	重点課題から選定した問題に繰り返し取り組む。					課題から選定した問題に繰り返し取り組む。		
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ドリル学習で選定された問題に取り組む。 授業で問題文から課題を見つけ設定する。 		<p>【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施</p>		<p>【検証】 標準学力調査 各学年前年度平均 +3ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題のある児童への取組 学級全体で定着していない問題等への取組 		<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査を全学年で実施

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 67.4%, 県69.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査結果から、①折れ線グラフと棒グラフを関連付けて読む力②条件を満たす時刻を見つけ出す力に課題があることが明らかになった。そこで次の4点を工夫して取組をおこなった。①グラフから分かることを見つける算数的活動を授業の中で積極的に取り入れる。②ドリルタイムや算数科・理科・社会科の授業などで2つの資料を関連付けて読み取る学習を仕組む。③問題文の分かっているところにアンダーラインを引いたり、たずねている部分に波線を引いたりする。④モデルや話型を示しながら自分の考えを道筋立てて表現できるようにする。その結果として、通過率は昨年度より上がった。しかし、依然として①折れ線グラフと棒グラフを関連付けて読む力②条件を満たす時刻を見つけ出す力の通過率が他の問題と比べて低いという課題が残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「目的に応じた計算結果の見積り(18.5%)」「複合図形の面積(51.9%)」「平行四辺形の性質の利用(51.9%)」など数と計算、数量関係・量と測定・図形の問題の通過率が低い。問題の意図を読み取る力をつけきれていないことが明らかになった。

重点課題

- 目的に応じた計算結果の見積り等、数と計算数量関係の通過率が低い。生活場面に関する問題解決の場の設定が不十分であることが要因であると考ええる。
- 折れ線グラフと棒グラフを関連付けて読むこと等、数と計算、数量関係の通過率が低い。問題文から分かることを全て挙げ、その中から必要な条件を選び出す場の設定が不十分であること、継続的な指導ができていないことが要因であると考ええる。

標準学力調査に向けた重点取組

- 【全体研修】
 - 全教職員で「基礎・基本」定着状況調査・標準学力調査の問題を解き、分析し、課題を共通理解する。
- 【授業改善】
 - 生活場面等から児童自ら課題を見付け設定し、個人思考を行い、他の児童との協働学習によりより深い学びとなる授業を単元に1回以上は行う。
 - 振り返りの場を必ず設定し、学んだ事・学び方・生活と結び付けたい事等について振り返る。
- 【取組】
 - 単元末に習熟度別問題を実施する。(「基礎・基本」定着状況調査・標準学力調査等の問題を活用)
 - 問題文の分かっているところにアンダーラインを引いたり、たずねている部分に波線を引いたりすることを習慣化させる。また、途中の計算式を残すように指導する。
 - ドリルタイムを活用し、自己選択をさせ習熟度別に学習を行う。(全教職員で取り組む。)

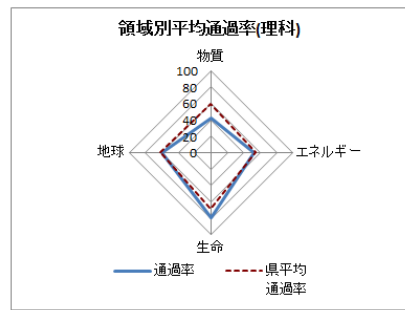
取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 課題に応じた問題文を選定する。 		研究授業を行い、課題発見・解決学習の工夫を行う。	10月の研究授業を受けて授業改善を行う。				
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ドリルタイムにて習熟度別に取組を行う。 問題文の分かっているところにアンダーラインを引いたり、たずねている部分に波線を引いたりすることを習慣化させる。また、途中の計算式を残すように指導する。 単元末に習熟度別問題を実施する。 		【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施		【検証】標準学力調査 各学年前年度平均+3ポイント	課題のある児童への取組 学級全体で定着していない問題等への取組	標準学力調査を全学年で実施

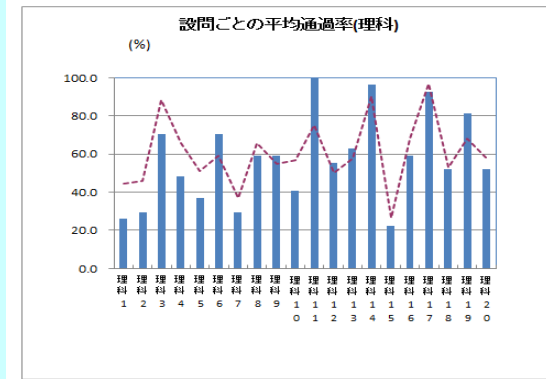
重点課題から選定した問題に取り組む。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 57.2%, 県60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査から、①昆虫の体のつくりで正しいものを選択する②植物の成長の仕方を正しく並べ替える等の自然現象についての知識・理解に課題があることが明らかになった。また、読解力にも課題があった。そこで、次の2点を工夫して取組をおこなった。

- 1 授業の中で観察の視点をはっきりさせて実物をしっかり観察・記録させていった。
- 2 文問題を読むことに慣れさせていたり、新しいことでの学習では、言葉だけの理解ではなく図に表し自分の考えを述べさせて意味を指導したりした。

その結果、実物に触れることが多くなり、新しく使う器具等について理解を深めていった。しかし、考えを科学的に説明することに課題が見られた。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「太陽の動きと影の関係 (22.2%)」「物の重さの測り方 (25.9%)」など、科学的な思考・表現や自然現象についての知識・理解を問う問題の通過率が低い。物事を推測することや、実験の条件をそろえること(重さの比較)の理解が定着していないことが明らかになった。

重点課題

- ・太陽の動き方から推測する科学的な思考・表現の通過率が低い。解答類型を見ると理解はできているが、理由(反対側ができるから)を説明することが十分でないことが要因であると考えられる。
- ・ものの重さを比べる場合には、体積を同じにして重さを比べなければならないという知識・理解の通過率が低い。
- ・理科用語を使った説明ができていないことと継続的な指導ができていないことが要因であると考えられる。

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

- 全教職員で「基礎・基本」定着状況調査・標準学力調査の問題を解き、分析し、課題を共通理解する。

【授業改善】

- 理科用語を使った説明を授業でさせていく。教師も理科用語を使っていく。(説明させたい内容を教師側が考えておく。)

【取組】

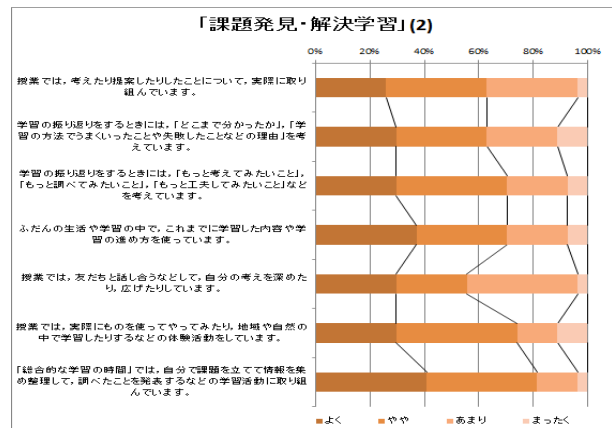
- 授業のはじめにミニテストを行い、既習事項の定着を図る。
- 自然事象についての理解や理科用語の習得させることに取り組むとともに、応用的な問題にも取り組ませていく。
- 重点課題から選定した問題に、ドリル学習で取り組んでいく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 ・課題に応じた問題文を選定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、理科用語を使っていく。 	重点課題から選定した問題に繰り返し取り組む。					標準学力調査の結果から選定した問題に取り組む。	
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ・理科用語を使った説明を授業でさせていく。 			【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施	【検証】 標準学力調査 各学年前年度平均 +3ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のある児童への取組 ・学級全体で定着していない問題等への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査を全学年で実施 	

別紙3 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査)

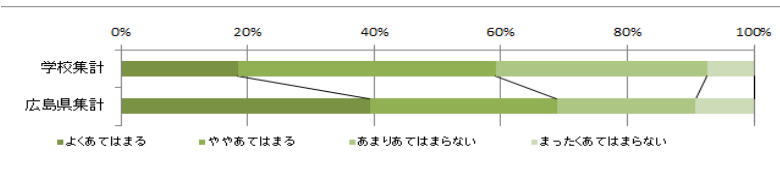
(1) 生活・学習



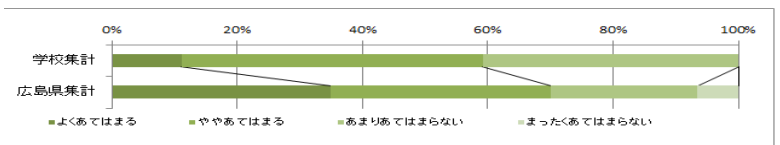
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。(55.6%)	話し合いをする時には、まず自分の考えをもつように指導していく。話し合いの中で、新たに発見したことや気づいたことを交流する場の設定をする。	1～5年	80%	児童によるアンケート 教師による観察	12月		

(2) 教科

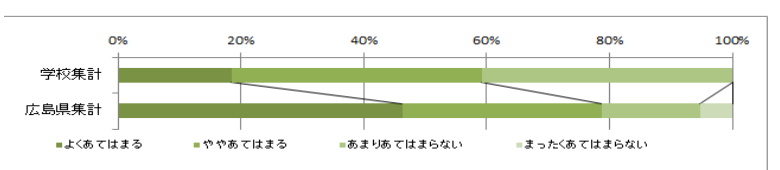
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



算数の授業では、式が何を表わしているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、自分で観察器具や実験器具を使っています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。(59.3%)	予習として、単元の始めに分からない言葉や漢字は辞書を使って調べるよう指導する。 1年生から辞書を使って調べる時間を設定する。	1～5年	80%	児童アンケート 学習ノート	12月		
算数	算数の授業では、式が何を表わしているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。(59.3%)	立式後に、式の説明をノートに書くように指導する。 学習のまとめとして、式に合う問題作りを行うようにする。	1～5年	80%	学習ノート 教師による観察	12月		
理科	理科の授業では、観察や実験を行うときは、自分で観察器具や実験器具を使っています。(59.3%)	観察器具や実験器具の正しい使い方ができるように指導する。 役割分担をしたり協力したりして、実験や観察ができるようにする。	3～5年	80%	児童アンケート 教師による観察	12月		